

平成29年度第7回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（海草・有田会場）

- 1 日時：会場 平成30年1月19日（金） 13:30～16:30 海南市民交流センター
- 2 参加者 市町村教育委員会きのくにコミュニティスクール担当者
教育関係者 県立学校関係教職員 共育コーディネーター 等
合計 52名
- 3 内容

◆講演 「学校・家庭・地域が共に歩む コミュニティ・スクール」

秋田県由利本荘市教育委員会 教育長 佐々田 亨三 氏

○子供に関わる学校・家庭・地域の現状と課題

人口減、少子高齢化、地域の教育機能の低下
学校の課題の複雑化、家庭の教育力低下

- 学校・家庭・地域が共に歩む
- コミュニティ・スクールへの期待
- 「私は明日から何ができるのか」一人一人が当事者意識をもつ



○由利本荘市における「ふるさと教育」に根ざしたコミュニティ・スクール

- ・地域にある多くの教育機能を再発見し、子供を育てる（＝人材育成）
地域に学ぶ＝地域を活かす＝地域の歴史を掘り下げる

・「地域とともにある学校づくり」→どのような子供を育むのか（熟議）

- ・子供が学校を語り、地域を語り、地域に自信と誇りをもつ地域づくり
→「地域」を教材に取り入れ、知的活動を掘り下げる
→「知的活動」と「CSの活動」を連動させる

・氏子的コミュニティ・スクール

地域の人口が減少し、学校の統廃合が進む。しかし、神社の数は減っていない。

→人の結びつきがあって、神社は守られていく。学校もそうあるべき！

○コミュニティ・スクールで何ができるか

- ・子供は未来からの使者である。
- ・地域の継承が途絶えてしまう中で何ができるか。
→地域を引き継ぎ、地域に根づく人材を育成する。

「保護者にとって、地域の方にとって、活躍の場ができる魅力のあるものになるよう、ぜひ実現を！」

◆実践発表

「有田中央高校における地域連携の取組について」

和歌山県立有田中央高等学校 教頭 森 勝博 氏

- ・課題（生徒指導案件、退・転学者や進路未決定者の増加、早期離職者の増加、部活動の状況）→有田中央高校イノベーション

- ・地域協育会の発足（学校・家庭・地域社会が協働して、地域社会の中核を担う若者へ育てる）→7つの部会での活動
- ・きのくにコミュニティスクールの活用→学校運営協議会と地域協育会のつながり、小・中・高等学校との連携、発信力
→「君たちは期待の星になれる！」学校・家庭・地域みんながかりで！

◆実践発表

「有田市のコミュニティ・スクールの取組について」

有田市教育委員会 教育総務課 指導主事 中西 朋子 氏

「有田市立初島小学校・中学校の学校運営協議会について」

有田市立初島小学校 校長 中西 和美 氏

有田市立初島中学校 校長 藤岡 倫夫 氏

【有田市教育委員会】

- ・既存の組織（学校関係者評価委員会・学校評議員制度・学校サポート委員会）を学校運営協議会に一本化
- ・有田市コミュニティ・スクール連絡協議会の開催
- ・今後に向けて
CS推進員（CSディレクター）の活用と組織体制の構築



【有田市立初島小学校・中学校】

- ・9年間のつながり、狭い地域だからこそ地域の学校、地域と共にとという視点で、ネットワークのよい学校運営協議会を目指す
- ・地域で子供を育てると意識の向上、地域の活性化を目指す
→小中の行事の見直し

4 参加者の声（アンケートより）

（市町村教育委員会職員）

- ・コミュニティ・スクールの実現に向けた考え方、「ふるさと教育」を核に、学校、地域、家庭を1つにつなぐ施策等、参考になった。当事者意識の向上、組織、編成、運営協議会等、地域性を大切にし、学校、行政のアプローチ等、具体例を聞くことで、実施のイメージが明確になった。

（小中学校教職員）

- ・コミュニティ・スクールをつくること、行動することがまず大切だと感じた。また、ふるさと教育を進めることが土台となるという考え方に同感した。
- ・学校だけの教育力ではなく、地域の教育力が子の「生きる力」を幅広く育む。子を育むことは地域の活性化につながり、逆に、地域の人々の影響が子の心を育てると思われる。「協働」し、みんなで子を育むことを大切にしていきたい。

（県立学校教職員）

- ・有田中央高校の実践発表は非常に参考になった。自身の学校のことを十分知り尽くした上で、地域の期待に応えようとする内容であり、独自の取組が必要だと感じた。